



だより



R5.10.10 Vol.21

続・雑談

○「あー校長先生！泥棒や！」「えええ？なんで？」
「だって黒い服着とる！」「な、なるほど…。」
○「おー『やまなし』勉強しよるんか？」「はい！
　　そういやクラムボンって校長先生ですよね？」
「は？いや、クラムボンって死んじゃうやん。」「あ
　　っそうか…じゃ、まっそういうことで！」
「え？どういうこと？(泣)」
○「校長先生！まだ子供の名前覚えてないんです
　　か？」「いや、覚えとるよ！ど忘れする時がある
　　んよ。言っとくけど、今まで担任した子の名前は
　　忘れてないよ」「え？ほんとに？(疑惑)」「でも、
　　校長になってからは先生の名前覚えてもらわん
　　のよ。」「そういや、私も校長先生の名前！知りま
　　せん。まっ、仕方ないですよ。自分が選んだん
　　ですから。」「あ。は、はい…ごもっとも…。」

群生美

校長室から見える各学年の花壇。寄せ植えの花鉢のように
綺麗です。ポータチュラカが1年生、マリーゴールドが2年生、
サルビアが3年生…なんて見立ててやると、この花壇全体が
学校を表しているのかも…なんて想像をします。一つ一つの
花や株が元気であることが大前提です。その上で、それらを
一つの塊として見た時にさらなる美しさを感じる。集団生活
を送るというのは、そういうことなのかなと思います。一人
一人が精一杯、咲き輝きながら、さらに集団としての美しさ
を求める。先日の運動会はまさにそんな場だったのではない
でしょうか。ある保護者の方に「運動会！とても素敵でし
た！」と声をかけていただきました。我が子も一生懸命、友
達も一生懸命、教師も一生懸命、それを感じるからこそ心が
動くのではないかと。個を大切にしながら、集団として取り
組むこと、やらなければならないこともさらに大切にして、
これからの活動にも取り組んでいきたいです。

四方山話令和5年度 ver. 其の二十一(折り合いをつける)

運動場周辺の草刈りをしていました。ふと手を止め、辺りを見ると、数十匹のトンボが私の回りに群がってい
ます。『はて？トンボの召喚術はまだマスターしていないのだけれど…』(もちろん何も召喚できませんが…笑)と
不思議に思いながら草刈りを再開すると、「あ！」と気づきました。草の中にいた数ミリほどの羽虫がびっくりし
て草むらからたくさん飛び出しているのです。『これを狙ってたのか！』と合点がいました。何か行動すると何
か気づきがあり、勉強になります。しばらくすると養護教諭も近寄ってきました。『え？まさか羽虫を食べに…』
「校長先生！草集め手伝いますよ！」「で、ですよ〜(汗)ありがどう！」刈った草を一緒に集めました。私は
作業しながら「上手に刈れなかったなあ。明日やり直そうかなあ。」と考えていました。養護教諭は「この草！も
し牧草になるんやったら牛にあげたいなあ。」と考えていたそうです。同じ作業をしているのに、てんで別のことを
考えている。当然と言えば当然ですが、ここに人と人との関わりの本質がある気がします。

雑談レベルの考えや思いの違いなら「いろいろだね〜。」と笑い話で終わりますが、家族で、あるいは学校
で友達と、大人ならば仕事場で同僚と、時には地域で同じ方向を向いて動かなければならない時、「それぞ
れがそれぞれに！」では具合が悪いですよね。どう折り合うか！これが生きていく上でとても大切な気がしま
す。力で押さえつけたり、排斥したりするのではなく、お互いが納得して動ける納得解、組織としてベストであらう
と思われる最適解を見つける。この折り合う力が、今まさに学校でも大切な学力として重視されています。

昔から言われる「読み・書き・そろばん」これも大切な基礎学力です。基礎がなければ関わりの範囲が狭く
なります。ないがしろにはできません。今、情報化社会の中、加速度的に人との関わりが広がっています。
「読み・書き・そろばん」の分野はAIが席卷しています。しかし、人として人とどう関わるか。AIはその答えは出して
はくれないでしょう。お互いが気持ちよく暮らしていける、生きていける、そんな折り合う力を学校という場でしっ
かり育んでいきたいです。私たち大人も、背中でその大切さを語っていききたいですね。